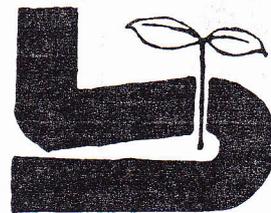


会報

556.9.16
NO.65



静かな環境を守り高速道路に反対する会

精リ強ク
助け合
話し合
民主的
自主的
努力・前進
家族を守り

ルート撤回へ
高速再検討
五輪整合を
公害はイヤ
環境を守れ
弱者にめろ
健康 オー

○会員増に協力しよう
○無理せず、さぼらず
○意見と運営案へ
○会報を読まよう

市長、市議会各党に全員バス陳情

胸に緑のリボン、139世帯418人の署名添え

「藤巻を通すな」「検討する」新聞テレビ報道

藤巻ルートの変更を求めた全員陳情は、9月5日決行。本
市長はじめ市議会各党派に私たちの意向を伝え、市長は
「検討する」と答えました。自民党はじめ各党も「当初案を変え
ての藤巻ルートなので皆さんのお気持ちわかる。高速道路に
関する態度はまた別だが……」など、さまざまでしたが、私た
ちの要望に対しては、一応の理解を示していました。各新聞、NHK
テレビラジオも一様にこの陳情を報道しました。

この日、陳情の一行は午前10時40分、三重交通貸し切りバス
で藤巻町を出発。現地合流の方々も加わり、早川会長以下、
胸に緑のリボン（ルート変更、環境緑を守ろうと書いた）を着けて
9月市議会初日の市役所へ。総勢45人。陳情書と139世
帯418人署名の名簿一覽を持つての訪問でした。あせんの渡
辺市議長が全く多忙のため、最初、オー各委員会でお話を続
けたいとロスはありましたが、まず早川会長ら代表が自民
党市議団の会議席へ乗り込んで陳情、「もつとだ」の了承
を受けました。ついで全員の前へ、本山市長、助役、計画局職
員が到着。渡辺市議長が「突然の計画変更、弱い者いじめ
は許せない。党も承知している。私も政治生命をかける。藤巻を
通さない案にせよ。留保とは計画の白紙化のことだ。都市
高速道路をつくることと、藤巻ルートとは別問題のはず。私案とあ
えていうなら当初案に戻るか、東山公園内～平和公園口方面ル
ート」と激しい口調でぶちました。早川会長は陳情趣旨を①
～④にわたっておだやかながら熱を込めて説明されました。

本山市長は「検討する」とだけ答えたに止り、計画局職員は逃
げ腰で「留保は環状高針ICの計画未決定との関係、などと述
べましたが、会員から「藤巻を既定案とする役所的発想は安
易だ。元から練り直せ。新たな藤巻ルート環境アセスメント計画も
あるやのウツサを肉くが、藤巻ルートを前提とおそれらの諸作業許
せない」などの発言がありました。

このあと、全員で民社、公明、共産、社会各党を巡回陳情、早
川会長は市政記者クラブで報道陣と記者会見、さらに会からモ
部代表が環状問題での交渉に参加、陳情の一行は予定より
やや遅れはしましたが、再び貸し切りバスで藤巻町へ無事帰
りました。用意のお菓子は夏休み以後とあって効果、はとにか、皆
さんに車内配布しました。「藤巻健在！」の一日でした。

ご参加の皆さん、ご協力くださった皆さんに深く感謝いたします。

陳情での協力深謝

今度は隣接地へ働きかけ

9/11夜運営委開催

陳情終了後、初の運営委は9月11日夜、早川会長以下8人が出席して
開き、陳情結果、加藤学連協会長の懇話、自治会関係、アンケート内
容での報告があり、「愛と噪とNOx 総量規制指定地域にカケ
よ」との公害患者の会の陳情書に会として団体署名付こを決定、
隣接自治会へ改め働きかけた手段方法にかつても協議しおた。
全員陳情については「参加者はほぼ満足の様子、一応の成果は
あった」との自己評価と「陳情は一過程、もつとがんばろう」との
反省がありました。次回は10月9日（金）7時半、消防詰所

広報・財務部会開くー陳情準備ご苦労さま

広報・財務部合同部会は9月6日10人が参加して開き、運営
の経過報告、全員陳情での感想など話し合い、財務部員から
は集金した8,9月分会費が提出されました。陳情はおおむね好
評。市議会女子職員から「こんなに大勢の奥様方がこらへた例は珍
しい」との声があった。なども披露されました。猛烈作業に深謝!

不在地主に 寄金

中村区名栗町1-12 安藤隆さんから2,000円。
礼状、領収書、最近の会報とお送りいたしました。

運営委員として思う

事務局担当 M・A

運営委員の一員として、会員の皆さんに推選されたときまず思
ことは、「うれし」と「責任の重さ」でした。

うれしとは、自身、輪審判の部長会のもと、事務局を担当し、それ
までの運動と比べべくもないもの、組織・運動の大きな後退をせ
ずに一年間取り組んできたことについて、会員の皆さんの推選をいた
だいたということ。

責任の重さとは、運動の経験も浅く知識も乏しい私が、オリーブ
クという高速道路促進剤をかかえ、会として、これまでの運動の結
論が出るかもしれない正念場であるこの一年の運動の推進役がな
まるかどうかという不安感。

そして現在は、運営委員に選ばれた以上は、推選された会員の皆
の期待に応える（自分も会員の一人である）のが私たちの責務であり、
会員の全員が一致できる案、すなわち「藤巻町を高速道路が通らないで
ほしい」という気持ち（住民運動に限らず要求はそれぞれエゴから
の出發であり、それを否定することはできない）に応えることであり、
（自分の力以上のことはできないが）それを放棄することは「人」と
して失格ではないかと思いつ、精一杯努力をしているところです。
幸い、他の運営委員の方々は、知識・経験と深い方が多いので、
そこで決まったことをやっていくという感じではあるのですが……。

「光りをとらぬ、みんなでガンバロー」

「会方針」運営委を支持

ルート変更 87.5%、政治手法 61.2%、自治会連帯 49.78%

緊急アンケート結果まとまる

陳情の準備作業たけなわの折「会方針アンケート」を実施したところ、大変ご協力いただき、運営毎では心から感謝しております。陳情内容との関係もあり、早急に皆さんの意向を確認したかったとの側面もあり、とくに広報・野原の皆さんにはご迷惑をかけました。

結果は右面をご覧のとおり「基本的には高速道路反対」だが「藤巻ルート反対で、変更要望」=運営毎の意向全面支持（不支持の）と出ており、陳情の趣旨ともおおむね合致しています。

アンケート結果分析 (数字の見方解説はいろいろです、各自ご検討)

設問の不十分さ、各足らずをまあおわびしますが、にもかかわらず、回収121(会員の大多数と一部会員外からのご意見)の好成績で、皆さんの関心の深さがうかがわれました。

向1では、高速道路賛成の方は見送らず(無回答の方と世のため人のためにエゴと張ったご意見は別として)、運動への参加方法について、あるいは成果についてさまざま一との様子があります。「反対のため積極的に」という方より、やや消極的な方の数字が目立ちます。向1の傾向を反映してか、向2の結果は、今回、運営毎が打ち出した方針、意向を支持される方が圧倒的でした。「藤巻ルート反対、変更の要求一本で」というのが、皆さんの多くの本音であるかもしれないと推察いたします。その一方で運営毎信頼支持というより、運営毎任せという懸念がうかがえないでもありません。向3の分析はおざかしいです。「個々の政治家一辺倒は危険、従来の会のスローガンの浸透」などが「不偏不党(勝敗度外視)」に20%を集めたのでしうか。しかし、ここでも運営毎の意向(渡辺氏一辺倒やベタモーションではないが渡辺氏意向)が大きく支持されています。向4はさらにおおむね問題。でも「緊密化を図れ」が「心情的連帯」を含めて圧倒的多数です。「会解消、自治会編入」は9%にすぎませんでした。さらに詳細分析します。

ご意見の中には ①高速道路反対のスタジを越せ ②ルート案と会から具体的に示す ③自治会も高速問題に取り組んで当然 ④運動力低下の原因となることは避けよ(条件、政治家問題、対自治会関係など) ⑤アンケートの是非などありました。(運営委相乗勢)

柴原さん(9組)から貴重なご意見 ぜひ皆さんもどうぞ!

アンケート実施にも関連し柴原さん(9組)から貴重な意見書をおいただきました。公営防止運動の原則、自治会の役割と会との連帯、会の存在意義と性格、アンケートの工夫に関するものでした。運営毎では、ご意見および委員会へのご出席ご発言大歓迎です。都、柳川、兵庫(渉外連絡担当)森上、本井、池田(研究調査担当)南嶺、鈴木(広報財務担当)相原、高木、磯部、川崎(事務局)へご連絡を。

井戸水調査ご協力に感謝—発表の次号

井戸水調査につきご協力いただきましてありがとうございました。ただいま集計作業を終わり、9月18日の部会を経て、会報紙上で皆さんにご報告の予定です(調査)。

向1 「着席高速にはあくまでも反対」という意見があります。

- ① 反対のため全市で運動、これに参加する 11 (9.0%)
- ② 藤巻を拠点にリーダー役員となって運動する 2 (1.6%)
- ③ 反対だが行動は無理 66 (54.5%)
- ④ 反対が完全に成功するとは思えない 29 (23.9%)
- ⑤ その他 5 (4.1%)
- ⑥ 無回答 8 (6.6%)

向2 「高速反対はさておき藤巻を通るのは絶対反対」の説のありか。

- ① 運営毎の意向を支持する(会報と読んだ同感) 63 (52.0%)
- ② ルート変更には一定の条件をつけ、それが満たされない場合は運営毎に任せ 0 (0%)
- ③ 一定の条件づけは当然、折衝は運営毎に任せ 43 (35.5%)
- ④ 運営毎を支持しない。役員になつてリードする 0 (0%)
- ⑤ その他 3 (2.4%)
- ⑥ 無回答 12 (9.9%)

向3 「渡辺氏意向」について

- ① 勝敗は度外視しても不偏不党がいい 25 (20.7%)
- ② この際、ベタな手段なので賛成する 74 (61.2%)
- ③ 他の手段を提案する 1 (0.8%)
- ④ 運営毎の意向を支持しない。委員に代わす 0 (0%)
- ⑤ その他 9 (7.4%)
- ⑥ 無回答 12 (9.9%)

向4 「自治会」と「私たちの会」について

- ① 会は従来通り自治会とは心情的連帯 35 (28.9%)
- ② 自治会との緊密化を図れ。自治会の能力を高め 32 (26.4%)
- ③ 会と自治会に解消編入。自治会高速部会にお 11 (9.0%)
- ④ 会は現在のまま自治会高速部会を兼ねた形が對外 27 (22.3%)
- ⑤ その他 0 (0%)
- ⑥ 無回答 16 (13.2%)

加藤学区会長と協力依頼懇談 長村自治会長むすむし、運営委代表同行

運営委員会では「ルート変更要求一本に絞る」の一環として、議員対策、学区および近隣各自治会対策を考えています。そこでまず長村自治会長とむすむし運営委代表が同行して9月2日夜、西山学区連絡協議会会長・区政協力委員長の加藤光治氏を訪問、懇談のうえ協力をお願いしました。加藤氏は「今度の話は一応評価する。立場上、個人的意見はいえない。皆さん自身が賛同者獲得の努力をすべきと思うが、藤巻町の意向・趣旨と藤巻町から学区役員会などの場で披露説明する機会を提供することにやぶさかではない」との意向を示されました。

学区役員会で長村氏が「高速・藤巻」を説明

これに伴い、9月7日夜、西山小学校で南かした西山学区各自治会長ら役員参集の席上、再び長村自治会長とむすむし、約10分間にわたって「高速道路問題と藤巻町、学区」に因り説明とあいさつ、協力賛同のお願いをしていただきました。加藤会長はこの席でも司会のさい「それぞれ立場で藤巻の皆さんの主張を聞き、協力できる人はしてあげてほしい」と述べておられました。